

NOTE BOOK

KYOKUTO NOTE IS MANUFACTURING THESE NOTE BOOKS WITH THE BEST QUALITY PAPER AND PRINTING, USING HIGH QUALITY MACHINES.

Vol.

敬学会賞第三十九回入選作品

賞

敬学会研究ノート

「猫の研究」



賤団法人敬学会

大学/3A・30枚

普通野

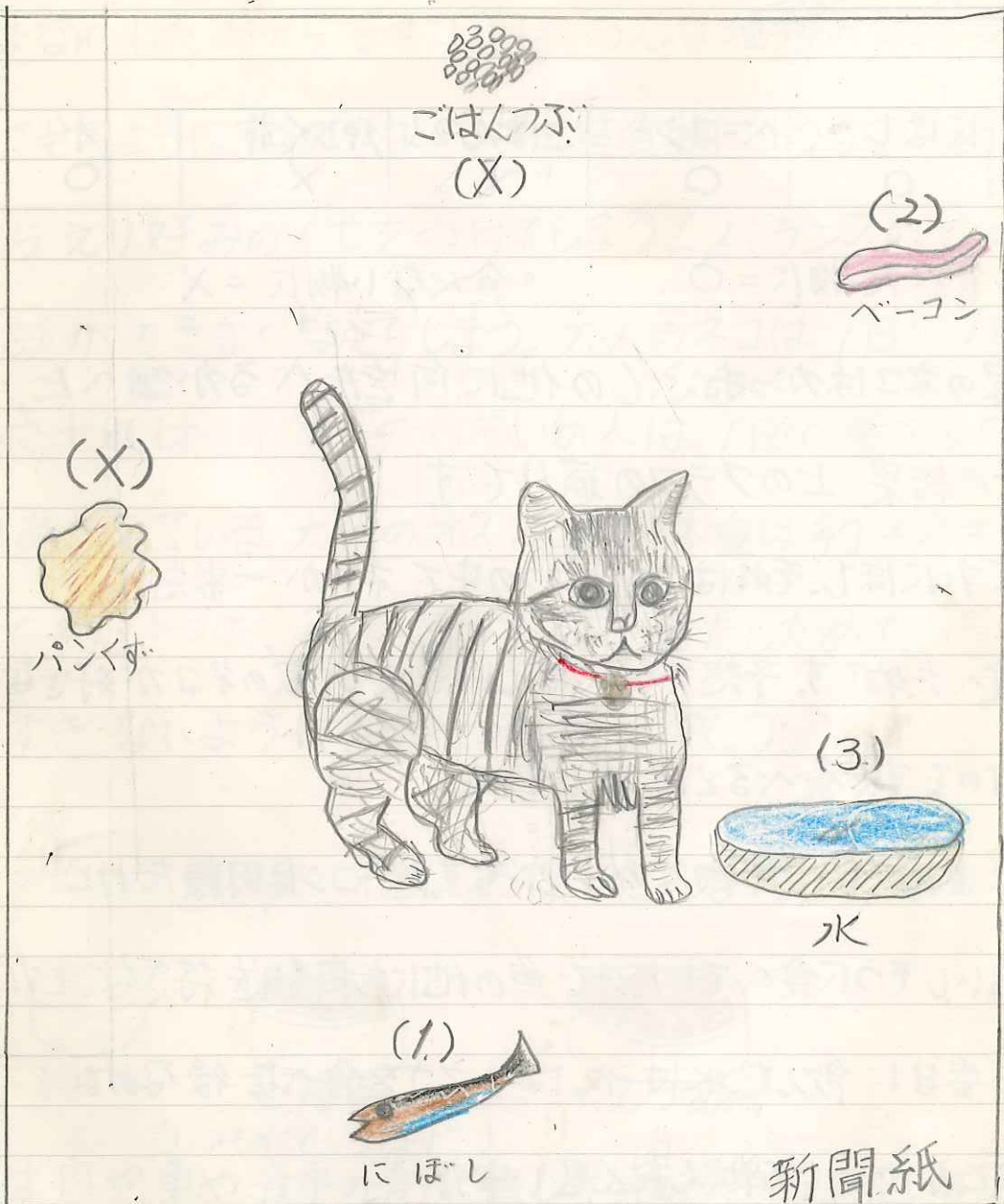
5年1組

設楽敦子

猫の食べる物

NO.

DATE 6.12.水



実験 その1
準備

新聞紙・にぼし・パンくず・ごはん・ベーコン・水・家のネコ

実験の結果

にぼし	ベーコン	ごはんつぶ	パンくず	水
○	○	×	×	○

。食べた物に=○ 。食べない物に=×

○家のネコはかつおぶしの他に何をたべるか調べた。

その結果 上のグラフの通りです。

✓○まずにぼし。それはこのグラフの中でネコが一番先に

食べた物です。予想でもにぼしは魚だし、家のネコが好きな食べ物
なのですぐ食べると思っていました。

✓○二番目に食べた物はベーコンです。ベーコンは肉類だけど

おいしそうに食べていたので、魚の他にも肉類を好きなことがわかった。

✓○三番目に飲んだ水は、やはりえさを食べた後なので

のどがかわいて飲んだと思います。

✓○ごはんつぶの場合はごはんつぶだけの時は食べないけど

キャットフードやにぼしなどまぜると食べた。

○この他にもかつおぶし、キャットフードなども食べた。

✓乳はなれした時から子ネコにはいろんな種類の食物を
食べさせるようにするのがいい。ネコは食物に小うるさい動物だ。
だから、えり好みのくせをつけてしまうと、バランスのとれた
食生活ができなくなってしまう。大人のネコは、1日に1回
食事させればいいが、たいていの人、1回の量を少なくして
2回あたえている。大人のオスネコで体重は約4kg、
メスで約3kgだ。時々、計りで体重をたしかめて、
太りすぎないように気をつかおうと思う。

実験の他にもおもに食べる物(図)



ミルク



乾燥食



かんづめの肉

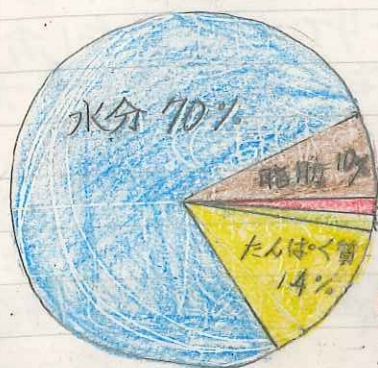
(いつも水といっしょに)
ネコは肉や魚や食卓の食べ残しや乾燥食品みたいなものを
たいな物を生で食べる。牛乳が好きなネコもいるけどこれはげり
の原因になる。かんづめの食物はだいたい70%ぐらいの水分を
ふくんでいるので、さといちはんいいえさかもしれない。
乾燥食品をあたえる時は必ず水か牛乳といっしょにあたえる。
乾燥食品をぬるま湯でもとしてあたえるのもいい考えた。
あんまりたくさん食べさせると排便が多くなる。

6.13.木

とくに去勢手術をしたオスネコは尿がたくさん出て問題だ。



ネズミはネコの理想的な食物だ。下の円グラフは、その成分を示したもの。また、ネズミの肝臓にはビタミンが含まれている。



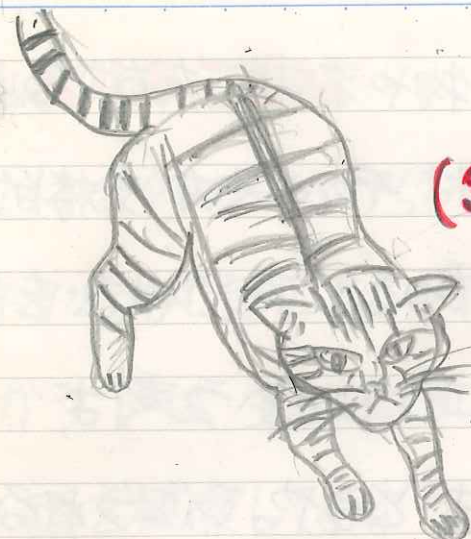
追跡と捕殺

(2) 獲物のつかまえ方をきめたらネコは、こうけきを開始する。尾をしすかに打ちふりながら低い姿勢できびんに走りよる。



(1) ネコがネズミのような小さな動物に目星をつけた時は、こうふんして尾の先たんをふりながら地面にうすくまてじと動かない。これは、動いている獲物のスピードと獲物までのまりを注意深くみきわめ、どうやってつかまえるかを考えているのだ。

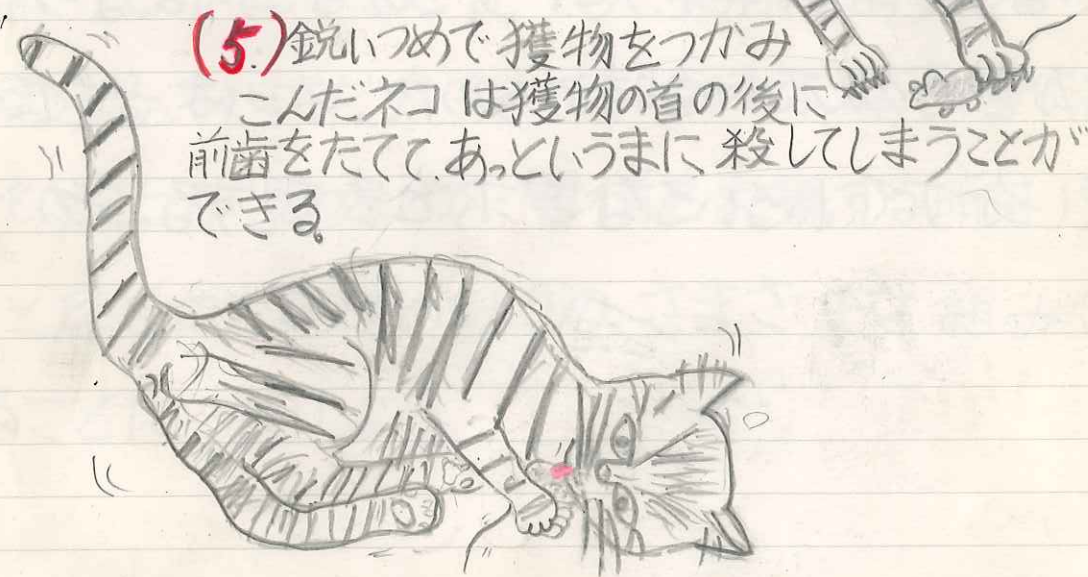
6.14.金



(3) 獲物に近づいたネコはおそいかかる準備をする。後足をのばしてかかとを上げて尾を荒っぽくふりながら獲物をみつめる。



(4) 獲物にとびかかったネコは前足をのばして獲物を地面に押しつける。そして後足のめを広げて後足をふんばって獲物をしっかりと押さえる。



(5) 鋭いつめで獲物をつかみこんだネコは獲物の首の後に前歯をたて、あというまに殺してしまうことができる。

猫の言葉

① うなり声や叫びは、他の動物やネコに、たちさるように警告を発するのに使われる。ネコは、そのイヌが友好的で

あっても、知らないイヌに対しては、うなり声と叫びを発する。

② 親しげな、つぶやくようなゴロゴロという声は

満足や喜びの表現だ。この声は、どうやって作られるのかよくわからない。でも、ネコののどにさわったり、胸に手をおいてみれば、その振動を感じる事ができる。

③ 食べ物がほしかったり、家の外にでたかったりする時には、大きな声でニャーニャーという、このなき声は、まちがいに何かをたのんでいる時のものだ。ネコは、舌をたくみに使い分けて、いろいろな要求を表現することができる。

身ぶりのことば

ネコは、体全体の身ぶりで感情を表現する。とくに、顔と尾で。ネコどうしで話をする時は、声よりも、この身ぶりの言葉をよくつかう。声は、主に人間と話をする時に使われる。

ネコの顔を観察してみよう。そうすればネコの目が、満足している時は半分とじた目で、おどろいたり心配している時は広く見開かれている目なのかわかる。

また、おどろいたり、恐れている時には、その耳をたいらにたおしたりビクビクさせる。そして、友情をあらわす時には、尾をまっすぐにたて、怒っている時は、尾を横にふる。

しかし、ネコが身ぶりで感情を表現する時は、その耳と尾と口とひげの動きの、さまざまな組み合わせであることに注目しよう。

目
勝手口

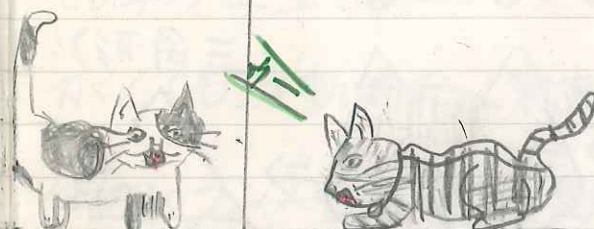


外に出て遊びたい時は、
げんかんの前でニャーニャーと
大声でなきます。

知らない人や動物にあうと、
ネコはうなり声や叫び(ガ〜)
という声を出す。



えさか なかった時も
外にでたかった時のように
大声でニャーニャーとなきます。



知らない、ネコや犬など
に会うと「ウー」とこわそうに
見せるために、おどろくように
強くほえる。

外で遊んできて、家にはいたい
時は、甘い声でミャーミャーとなきま
す。

目
勝手口

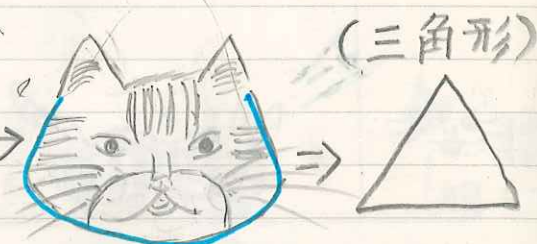


成長

✓ネコの小さい時の顔の形は →



✓ネコのとしよりの時の顔の形は →



ネコが小さい時は、小さいぎゃくさんからけいで、子ネコは自分の敵なのか、それとも仲間なのか見分けがつかない。

としよりのネコは、活動なくなるので食事も少なく歯と歯ぐきもよわってくる。

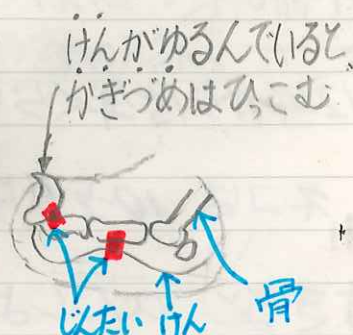
こうして小さいネコからとしよりのネコをくらべるとずいぶんかわってきたことがわかる。

✓ネコは、ペットの中でも一番、寿命の長い動物で、ふつうイヌよりも長生きする。ネコの寿命は、12年から15年くらいだが、なかには30年以上生きるものもある。ネコは、10才から12才になるまで、かとても活動的だ。これをすぎると、なんしようではなくなる。体のバランスも悪くなり動きもにぶくなっていく。としよりのネコは、さむがりだ。としよりネコには、一度にたくさんのえさをあたえるより、少しずつ何回もあたえたほうがいい。そして、太りすぎるほどえさをあたえるべきではない。としよりネコは、オシッコをしにいくために、しばしば外へでたがる。これらの変化は、ネコがとしをとって、体の機能がおとろえてきたことによる。

つめの役目

(1) つめの形

かぎつめの外のからは、新しい鋭いつめと入れかわりはかれる。



けんがはるとかぎつめは外にのぼされる。

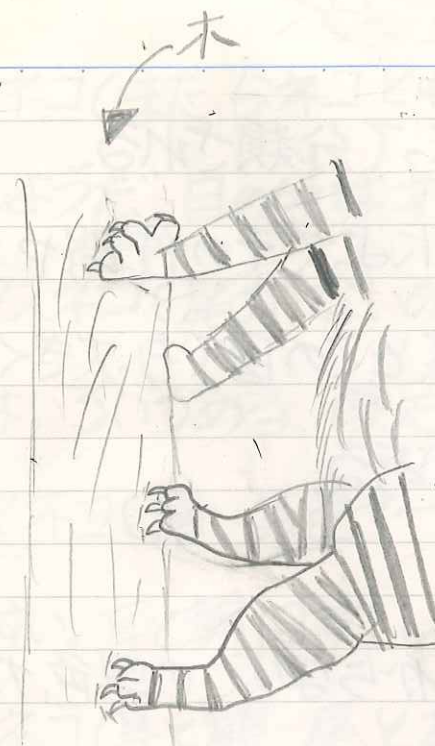


(2) つめ使い

- ① 木にのぼる時 (ネコは、ひなんする時など、木にのぼる。それは足のつめと手のつめをかめるかわる動かしてのぼる。)
- ② 獲物をつかまえる時 (ネコは獲物を見つけると、にげられない内に、つめをだしてとまかりつかまえる。)
- ③ あいてと戦う時 (自分のなわはりなど、あいてにとられなくするため、つめをだしてあいてをおいはらう。)

(3) つめの手入れ

ネコは、木やタタミやしゅうたんなどにつめをだしてひかく。それに朝おきると顔をあらうが、その時にからだやつめもサラサラした舌できれいにする。しかし、つめをとぐ物をあすけると、最初ににおいを付けてそれから自分の物かにおいをかいて、たししょうぶと思わるとぐことになるのでタタミなどよこさなくてもたいしょうぶになる。



自分よりも大きな好意的でない知らない犬に直面した時にはネコは戦うよりは逃げてしまう。こんな時ネコは身近な木にかけのぼる。

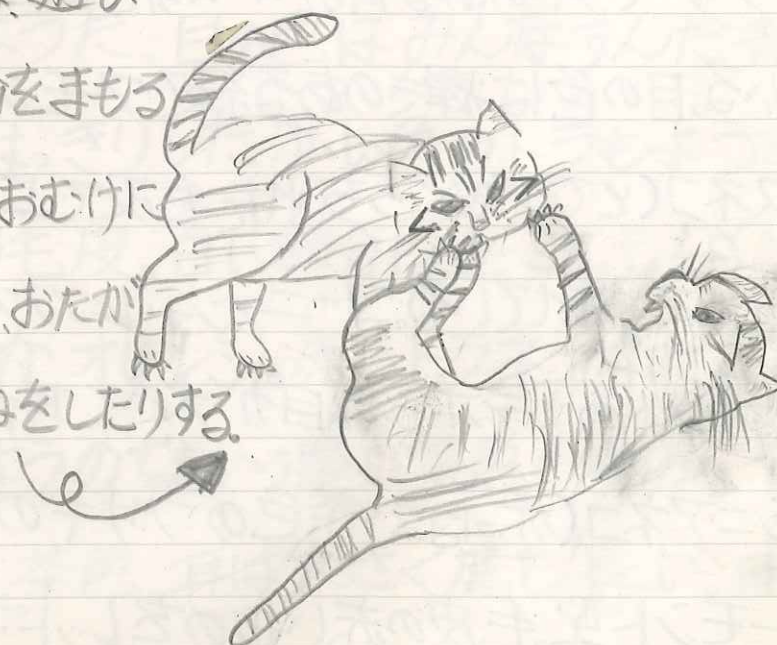
子ネコや若いネコは遊び

のけんかをして、自分をまもる

方法を学んでいく。あおむけに

なり、後足でけたり、おたか

いの首にかみスまねをしたりする。



ネコの種類

ネコは頭の型と毛の長さによって分類される。

ネコはそれが飼われている国によって、その仲間や名前も少しずつちがっている。でもネコは、どの国でも大きく分けて、長毛類と短毛類の2種類がある。

短毛類

- ニモネコ (白と他の単色の2色からなり、この単色が全体の3/4以上をしめない。胸とあごと腹と前足はふつふつ白。目はオレンジや黄色や赤か、色。)
- ロシアブルー (つやのある青みがかかったグレーの毛が体をひらきおおっている。目の色は輝きのある緑でアーモンド型。鳴き声は静か。)
- レックスネコ (とても短くちぢれた毛皮で上毛がない。ひげもちぢれていて、折れている。コーニッシュ・レックスとデボン・レックスの2種類があり、デボンは目が大きく耳がとても長い)
- アビシニアネコ (赤っぽい茶色のウサギのような色の毛皮。目はアーモンド型。毛皮の赤いものをレッド・アビシニアという。)

- 三毛ネコ (まだらネコともよばれる。白地に黒と赤のパッチもようだ。目の色はオレンジか赤か、うす茶色)
- マンクスネコ (尾がないのですぐにわかる。毛皮の色やもようはいろいろある。後足がとても長く腰が高い)
- ビルマネコ (濃い茶色でつやがある毛皮。腹と胸は色がうすい。耳と顔はすこし濃い。目の色は黄色。)
- シャムネコ (耳と顔、尾とあしの先などの、体の冷たい部分に濃い色のポイント(もよう)があるクリーム色か白の毛皮。このもようはチョコレート色、青、赤、うすむらさき色、またはトラもようや三毛もようだ。目の色はみんなすんだ青。)
- トラネコ (赤) (はきりした赤い色のトラもようをもった深いオレンジ色の毛皮。白い部分はどこにもない。目の色はうす茶か、オレンジ。赤いトラネコはだいたいオ)
- ハバナネコ (もようのない濃い茶色の毛皮。そして、ひげも口も鼻も、茶色。耳は大きく尾も長い。目の色は緑。)

長毛類

• カラーポイント・ペルシャ(クリーム色か白の地に、シャムネコのようなポイントがある。しかし長い毛や体つきはペルシャのものである。シャムネコのようにポイントの色は異なる。目の色は青。)

• トルコネコ(半長毛種のネコ。全体の色は白亜色(チョークの色)で、顔にしょうが色のもようがあり、尾もしょうが色。耳は大きく、てひんと立っている。目は、こはく色。水の中にいるのがすきな変わったネコ。)

• チンチラ(下毛は白色だが毛の先端が黒いので全体は銀灰色に見える。足のうらとまぶたのへりは黒。目の色はエメラルド色か青緑。)

• バーマンネコ(クリームっぽい茶色の地に、シールポイントがある半長毛種のネコ。足のさきが白いのですぐにわかる。目の色はあい色。)

• ニモペルシャ(白地に他の色の二毛。あごと胸と前足と肩は白。目の色は赤か茶色かオレンジ色。)

• 三毛ペルシャ(黒と赤とクリームの三毛。三毛ペルシャはほとんどかづスでオスのものはごくごくまれ。またオスの三毛ペルシャはふつう子ネコをつれない。目の色は、オレンジ色か赤か茶色。)

• 黒ペルシャ(毛はま黒。オレンジ色か赤か茶色の目。子ネコはくすんだ黒だが成長するにしたがってま黒い毛になる。よく陽にあたるところに、いつもいるネコは茶色っぽくなる。)

• スモークペルシャ(黒い顔のまわりに銀色の首毛があり、耳にも銀色のふさかざりがある。下毛は白。背中の外毛は黒で、体の側面は銀灰色。あしは黒。目はオレンジ色か赤か茶色。)

• 赤ペルシャ(赤い単色のこのペルシャネコはあまりいない。毛の色はトラ毛のような深いオレンジ。目は深い赤か茶色。)

ネコの体

(ネコの毛)

毛皮はかまれたり、かすり傷から体を守る防水

性のおおいた。そして、もちろん寒さや暑さからも。

毛皮には、下毛と上毛がはえている。上毛は ^{しもう} 刺毛ともいわれ、ひげのようにとてもせんごいにできていて、痛みや喜びを感じる。ネコはより大きな動物にみせかけて相手をおどかすために自分の毛をさかだてることができる。1本/本の毛は、立毛筋とよばれる筋肉をもっているのだ。それぞれの毛は、上の図のように毛根に植わっている。

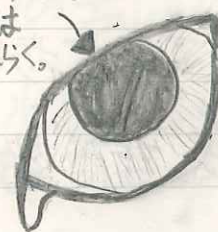
(耳)

ネコは人間にはきこえない高い音や低い音をききわけることができる。ネコの耳は、犬より敏感に動き、音のくる方向をすばやくキャッチする。ネコの耳はまた、こうげきをしかける時などの感情を表現する。

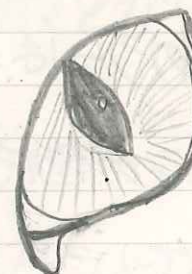


(目)

かすかな光の中では
どう孔は
大きくひろく。



強い光の中では
どう孔は細く
としている。



✓ネコは昼間でもすぐれた視力のもち主だ。

しかし、ネコの目はなんといっても、狩りをする夜間にそのすぐれた視力を発揮する。目のうしろの特別な組織が人間には見えないとてもかすかな光をみることを可能している。

(尾)

長くしなやかな尾は、脊椎の延長である。尾は、体のバランスを助けるための大切な働きをする。たとえば、飛びおりたり、飛びあがったりする時は、

尾を後にさしたす。またネコは尾でその感情を人間に語りかけることができる。ネコはきげんがよい時

(足)は「しっぽパタパタ」というと尾をパタパタする。

ネコの足はよじのぼったり、えさを食べたり、洗ったり、穴をほったり、狩りをしたり遊んだりするのに役立つ。

だん力性にとんだ足のうらは、音をたてずに歩いたり、飛びおいた時のフ、ジョンの働きをする。また、敏感にできているので、足のうらでいろいろなことを感じる。



(舌)

ネコの舌は、長くてうすくて、そしてとても自由に動きまわる。

ミルクをのむ時はその舌はスプーンのようになって、ミルクをつまみこめるし、自分の毛皮をなめて、身づくろいするためにもつごうがよくできている。ネコが人間の手をなめた時舌がとてもザラザラしていることに気づく。この舌の表面は後にそった、小さな突起物でおおわれているからだ。

この突起物はネコが毛をなめる時には、ブラシの役目をする。ネコの舌はまた、食物の味をたしかめるための役目

をする。ネコの舌は、塩と酸とからさに特に敏感だ。そして、き、と水にたいしても。

(歯)

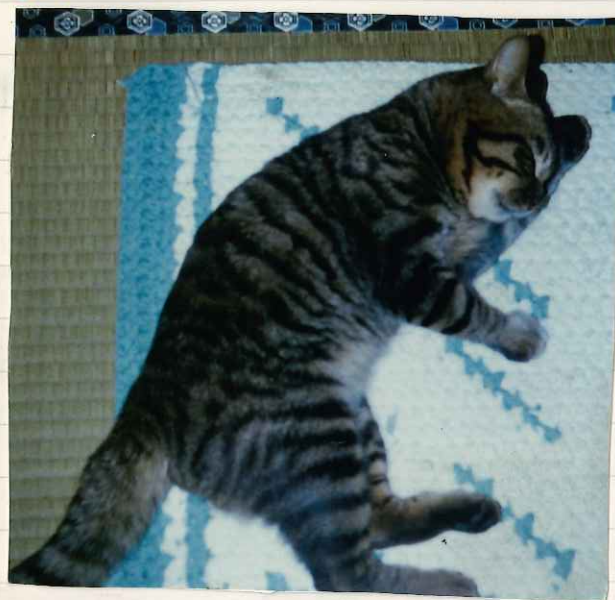
ネコは、獲物を捕殺するための長くて鋭い犬歯をもっている。この犬歯はまた、身づくろいする時に、からま、てしまった毛をほぐしたりするのに役立つ。おく歯は、えさをかむための歯だ。門歯とよばれる前歯は、とても小さくてあまり使われない。門歯はとしをとると抜けおちてしまう。

(ひげ)

ネコのひげは、たいへん敏感にできている。ひげはアンテナの働きをして、障害物をさける助けをする。

ネコは水にぬれるのがきらいだ。ネコは泳ぐこともできるけれど、本能的に水をおそれるようだ。一週間に1度体を洗うけど、あはれたり、つめをたてたりしてとてもたいへんです。

身づくろい



ネコは前足をつかって、顔や耳をきれいにする事ができる。最初になめてよくぬらす。ネコは、このぬらした前足で耳からあごへなでおろして自分の顔を

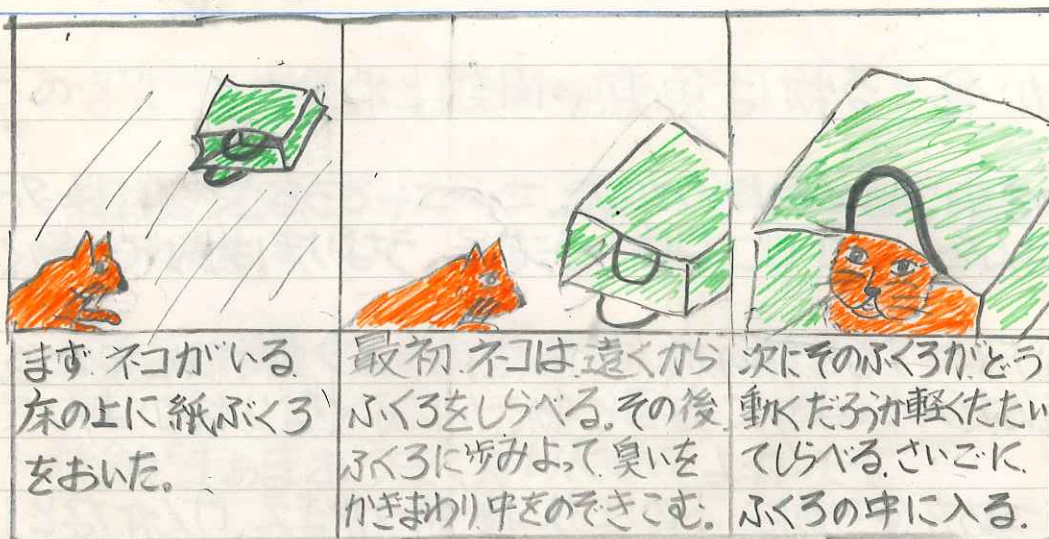
きれいにふく。その他にも、後足を前足でもちあげ、舌までもていき、後足もきれいにする。そして、体もきれいにする。

◎このことは、迷信かもしれませんが、ネコが顔をあらう時耳のかけから前足で顔をあらう時は、天気が晴れるということだそうです。

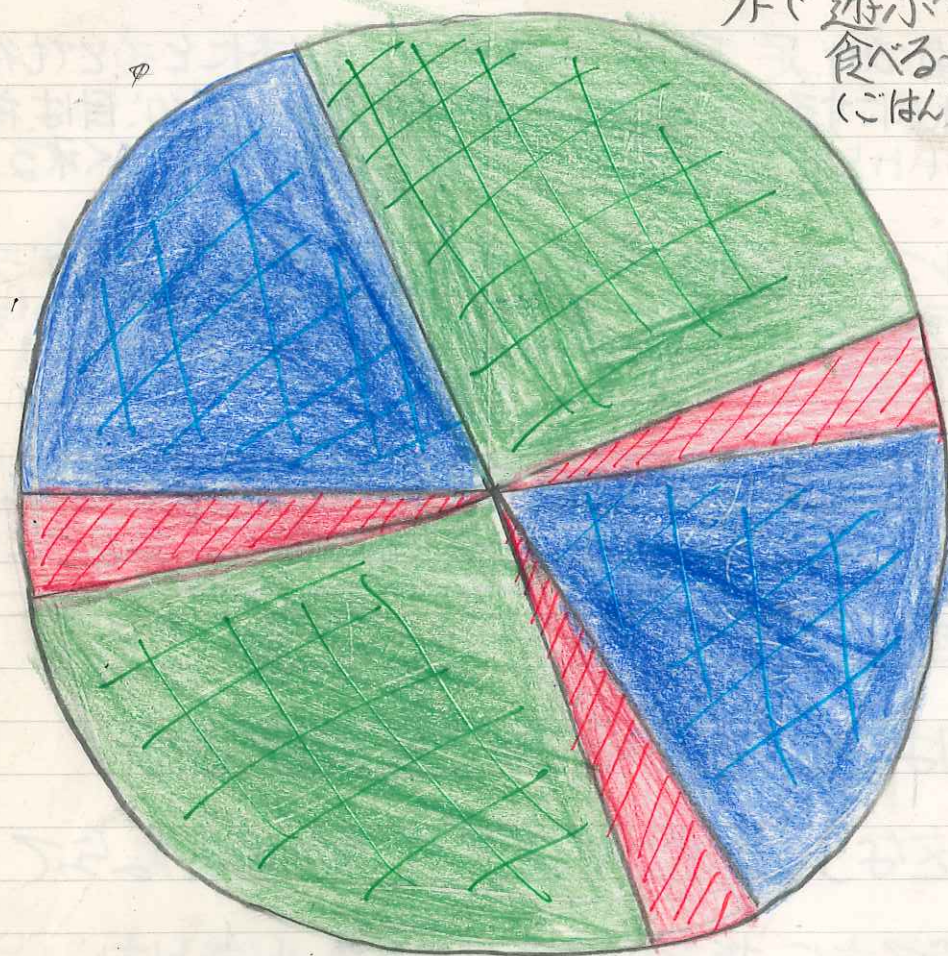
◎それに、ネコはけがをしたりすると、全部自分の舌でなめて治すようです。

ネコの行動

好奇心



ネコのだいたいの一日



まとめ

- ・ネコが食べる物は魚類や肉類とわかった。
- ・ネコの言葉はほとんどわかった。ニャニャという声なけは外にでないと、ごはんをくれ、ゴロゴロはもう満足。うなり声はあいてに怒くみせるため。
- ・ネコが成長すると顔の形はぎく三角形から三角形に変わる。
ネコがだんだんとしよりにになると動きがにぶくなり体がよわてくる。
- ・ネコがつめを使うのは木のぼり、獲物つかまえ、けんかななどにつかう。ネコのつめはタタミなどでとぐ。そして体をなめると同時に、つめもなめてきれいにする。
- ・ネコの舌、歯、爪、足、尾、目、毛皮はネコの体にとてとても役にたつ。
舌は体をきれいにするためとか歯はかたい物を食べるとか、目は夜でも見えるからいいとか毛は体を守ってくれる(あたたくはくはくする)など。
- ・ネコは身づくろいをする。それは前足などを使い、舌のザラザラする、ブラシのようなものでなめて体をきれいにふく(する)ことだ。顔を洗う時は前足をなめてから顔をふくから人間と同じだ。
- ・ネコは1日の約 $\frac{2}{3}$ はねている。ネコは紙ふくなどを見ると以上がないから入る。ネコは入ったらふりかえって私たちがのぞきこむ。

● 調べ忘れ (行動)

家のネコはきげんがよくて、私たちとあそぶ時、

私が指をならすとネコがきづいて、その指をねらて走ってきて、歯をたてずに指をかんでじゃれる。私たちはじゃらす。

反省

- ・字が少しきたなかった所があった。
- ・絵などお兄ちゃんに少しだけ手伝ってもらったのでわるかった。
- ・写真がうまくとれたのでよかった。
- ・絵がまあまあうまくかけたのでよかった。